

2019年12月20日

イオン九州株式会社

～低炭素の活動を通し九州の農業を元気に～

「九州力作野菜®」・「九州力作果物®」プロジェクト共同体（代表：イオン九州株式会社）

第3回ジャパンSDGsアワード「SDGs推進副本部長（内閣官房長官）」賞受賞！

イオン九州株式会社（住所：福岡市博多区 代表取締役社長：柴田 祐司、以下 イオン九州）と味の素株式会社九州事業所（住所：佐賀市諸富町 九州事業所長：田村 光司、以下 味の素株式会社九州事業所）および農業団体など約60の企業・団体が共同して低炭素の活動を通して九州の農業を元気にするバリューチェーンを力作（構築）するプロジェクトが、第3回ジャパンSDGsアワードの「SDGs推進副本部長（内閣官房長官）」賞を受賞いたしましたのでお知らせいたします。

このプロジェクトは、味の素株式会社九州事業所がアミノ酸搾取後の副産物（発酵副生バイオマス）を堆肥と混ぜ、堆肥中の微生物による分解・発熱力を利用することでできた発酵副生バイオマス入りの堆肥についてイオン九州と情報交換したことをきっかけに、2012年10月からこの堆肥を使用した農産物の栽培実験がスタートいたしました。この実験において農産物の栄養価や味の向上に効果が認められたことで、バイオマス化により年間2,000tのCO₂削減に相当する重油の削減に貢献するこの堆肥を中心に、『副産物の有効活用による重油使用ゼロによるCO₂排出およびコスト削減（味の素株式会社）』→『高品質な肥料（発酵副生バイオマス混合堆肥）の製造と販売（堆肥製造業者）』→『安価で高品質な肥料による栄養価の高い付加価値のある農産物の栽培および販路拡大による所得増（農家）』→『ブランド化で差別化できる農産物の取り扱い（小売）』→『売場提案による「九州力作野菜®」・「九州力作果物®」の需要創造（味の素株式会社）』→『安全・安心・おいしい野菜・果物の消費（お客さま）』というバリューチェーンが構築され、関係者すべてが利益を享受でき、持続可能かつ拡大再生産が可能なビジネスモデルが確立されています。直近での「九州力作野菜®」と「九州力作果物®」の生産者数は約200名、栽培面積は約100haと、開始から5年間で生産者数と栽培面積は約5倍に拡大しており、九州の農業の活性化につながっています。

イオンは、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すという考えのもと、小売業を中心とする事業特性を活かし、環境・社会の課題解決に向けたさまざまな取り組みを推進しています。九州のイオングループの代表として、イオン九州はこれからもオープンイノベーションによりさまざまな企業・団体と協力することで、SDGsに掲げられた課題の達成に取り組んでまいります。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



「ジャパンSDGsアワード」は、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた企業・団体などの取り組みを促し、オールジャパンの取り組みを推進するために、SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体などを、SDGs推進本部が選定し表彰するものです。

【表彰の種類及び表彰の対象】

- ① SDGs推進本部長（内閣総理大臣）表彰
■極めて顕著な功績があったと認められる企業・団体など
- ② SDGs推進副本部長（内閣官房長官及び外務大臣）表彰
■特に顕著な功績があったと認められる企業
- ③ 特別賞「SDGsパートナーシップ賞」
■特筆すべき功績があったと認められる企業・団体など

第3回SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞受賞

「九州力作野菜」 「九州力作果物」

プロジェクト共同体によるバリューチェーン

「力作の輪」

